

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

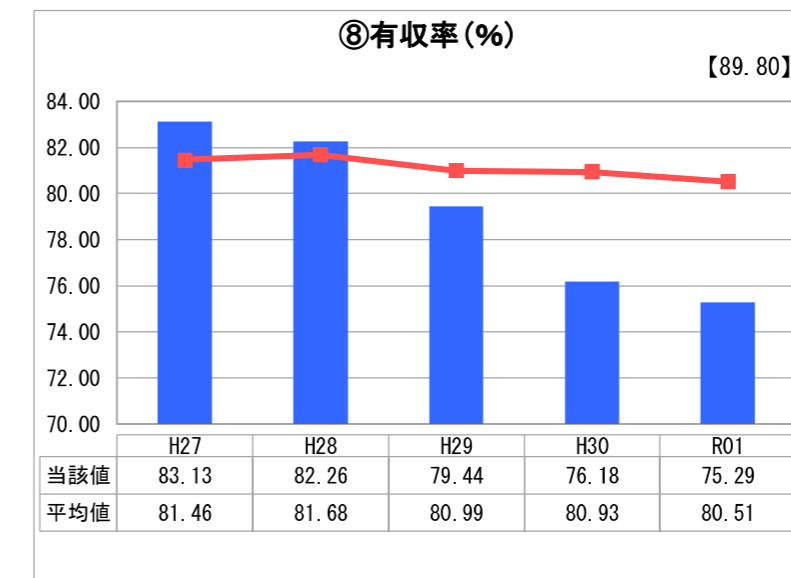
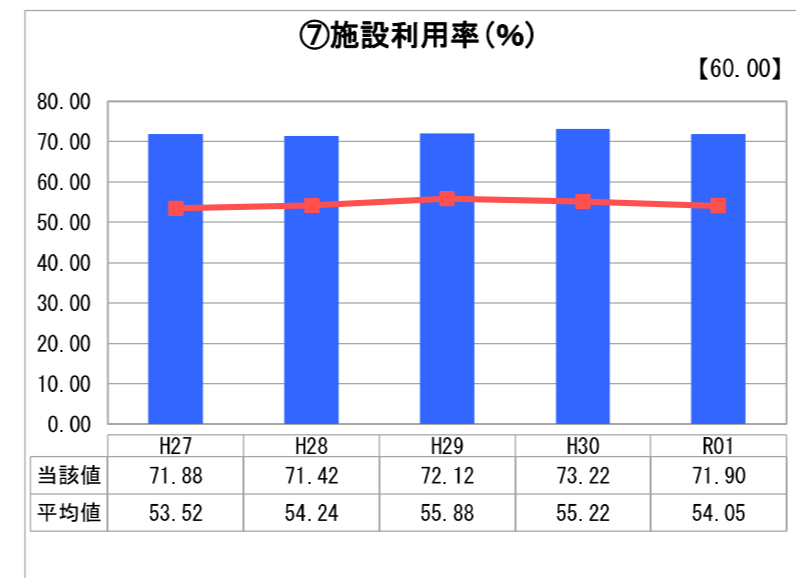
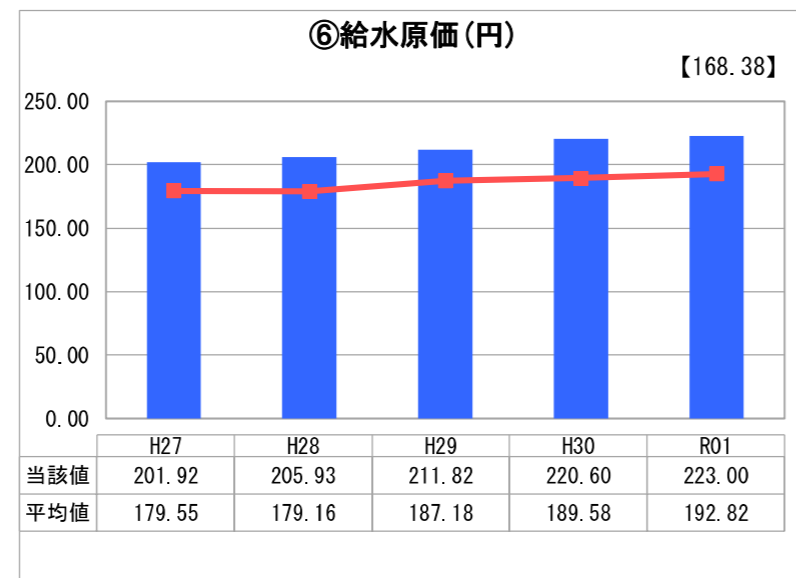
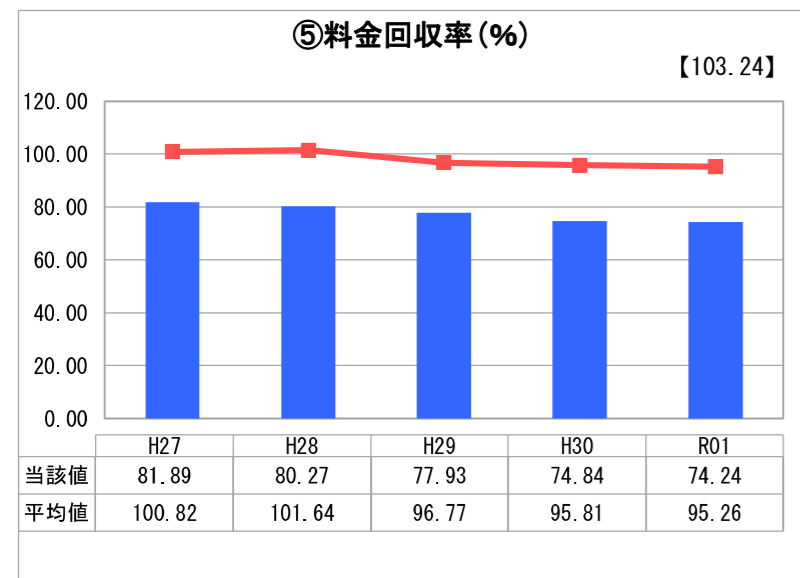
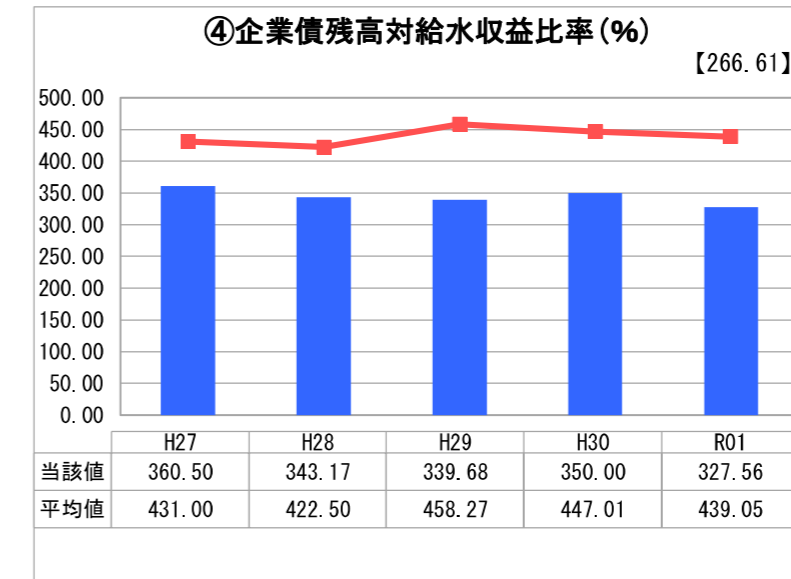
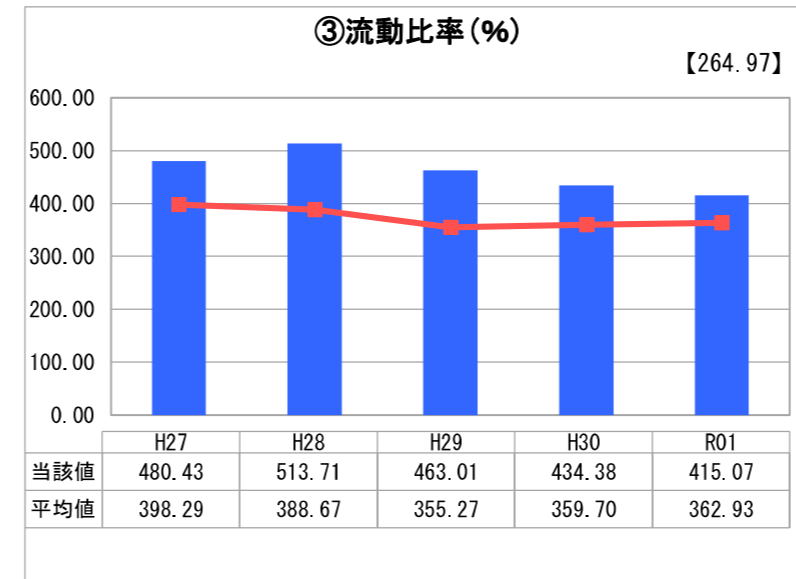
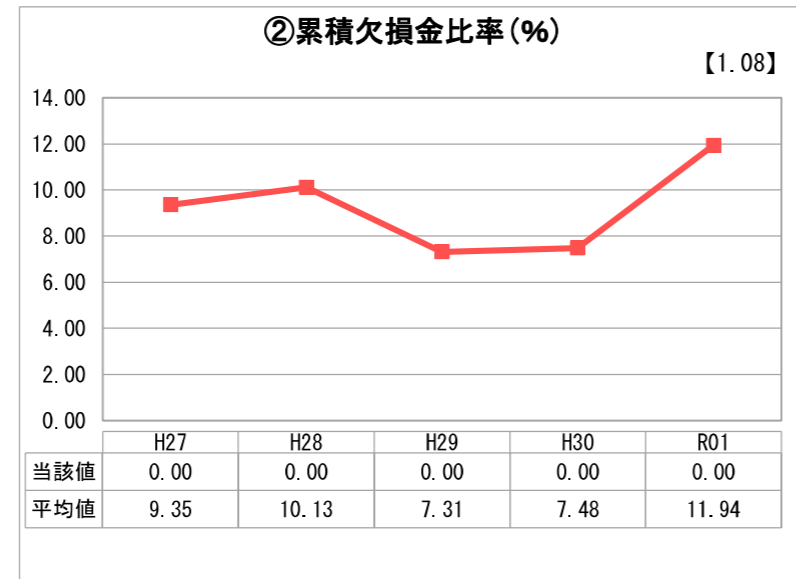
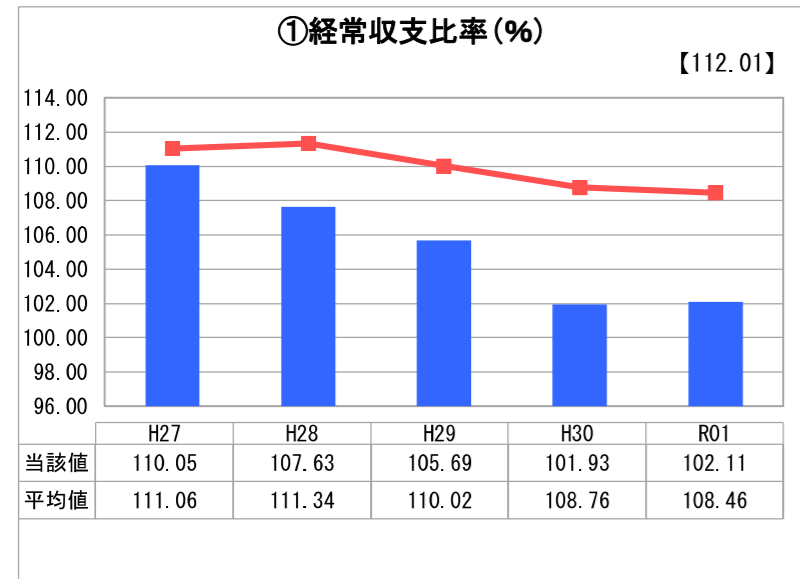
埼玉県 ときがわ町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	76.82	96.66	2,937	

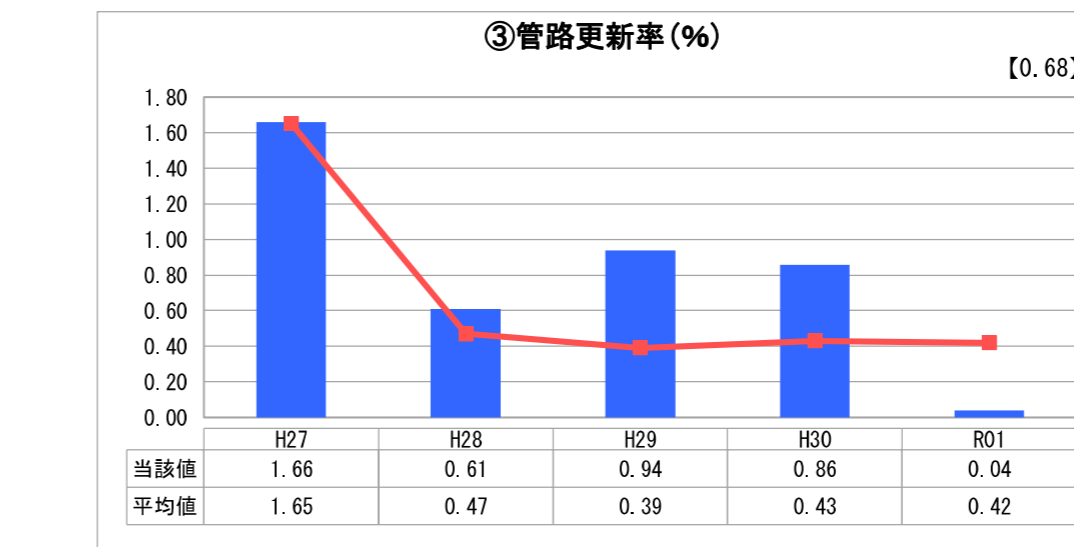
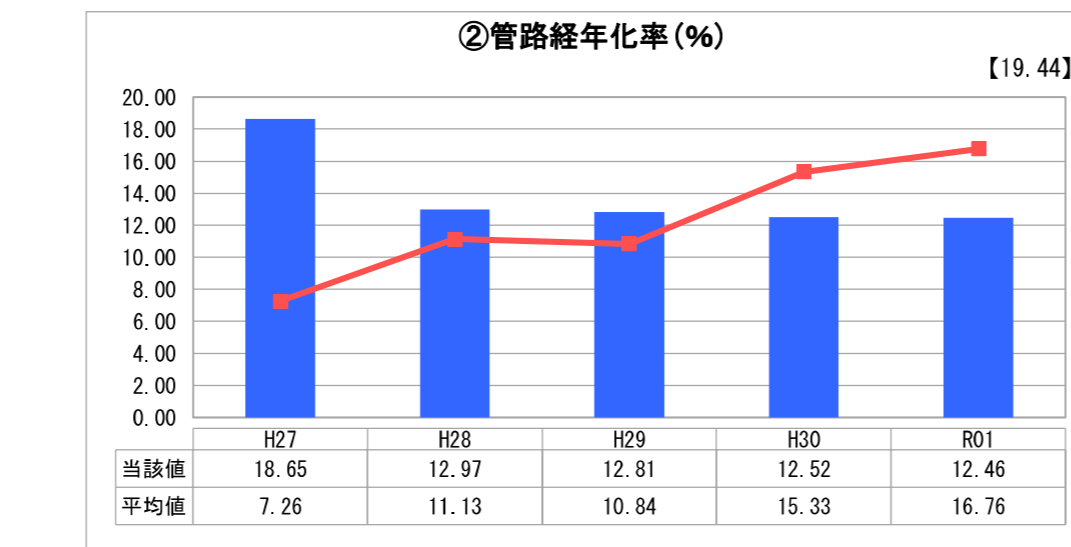
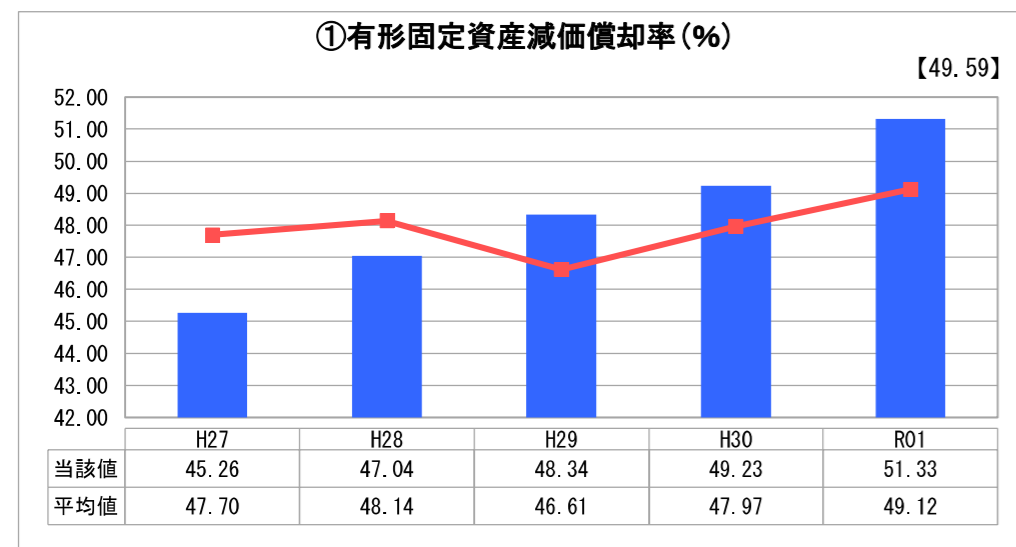
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,069	55.90	198.01
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,657	43.70	243.87

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
黒字であるが、前年度と同様に憂慮すべき状況に変わりはない。収入については、料金収入以外にも一般会計からの繰入で賄われており、その比率も高い。
- ②累積欠損金比率  
累積欠損金は生じていない。
- ③流動比率  
100%を大きく上回っており、支払い能力には問題はない。
- ④企業債残高対給水収益比率  
類似団体と比べ低い数値となっているが、経営戦略に基づく計画的な老朽施設の更新により企業債借入額は今後増加が見込まれる。
- ⑤料金回収率  
料金収入が少なく一般会計からの繰入で賄っているため、類似団体と比べ低い数値で推移している。
- ⑥給水原価  
類似団体より高い数値で推移しており、かつ増加傾向である。企業債残高や、減価償却費、受水費の負担が大きな要因になっている。
- ⑦施設利用率  
類似団体と比べ高い数値で推移しており、効率的な運用が図られている。
- ⑧有収率  
平成27年度以降、減少が続いている。既存の方法以外の様々な方法を模索しながら、引き続き有収率向上により一層の対策を行う必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
類似団体より高い数値で推移している。今後も、経営戦略に基づく計画的な更新を進める。
- ②管路経年化率  
類似団体と比べ低い数値である。石綿セメント管更新事業は完了の目的が立ったが、他の管種の更新需要が増加しているため、経営戦略に基づき計画的な更新を進める。
- ③管路更新率  
当年度は、事業の繰越により一時的に減少した。

### 全体総括

経営規模に比して、施設の維持管理費用、また老朽施設の更新費用が多額になっており、料金収入だけでは不足するため、一般会計からの繰入により賄っている。今後の更新需要に対しても十分な財政基盤が確立されているとは言えない状況である。また有収率の向上も急務であり、漏水調査、及び漏水の可能性が高い老朽管の更新を積極的に進めていく必要がある。

平成30年度に策定した経営戦略に基づくサービス水準の維持向上、安定的・継続的な事業経営を推進していくため、ときがわ町水道審議会へ水道料金の見直し(改定)について諮問した。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 ときがわ町

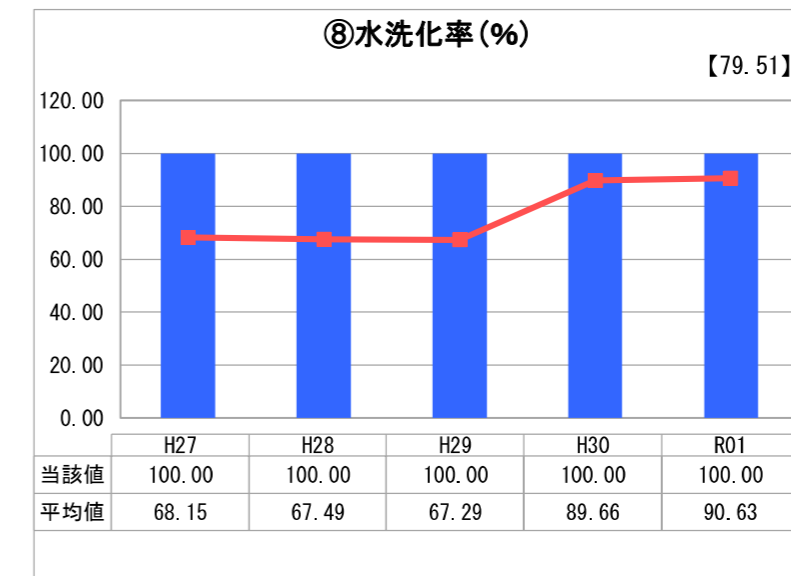
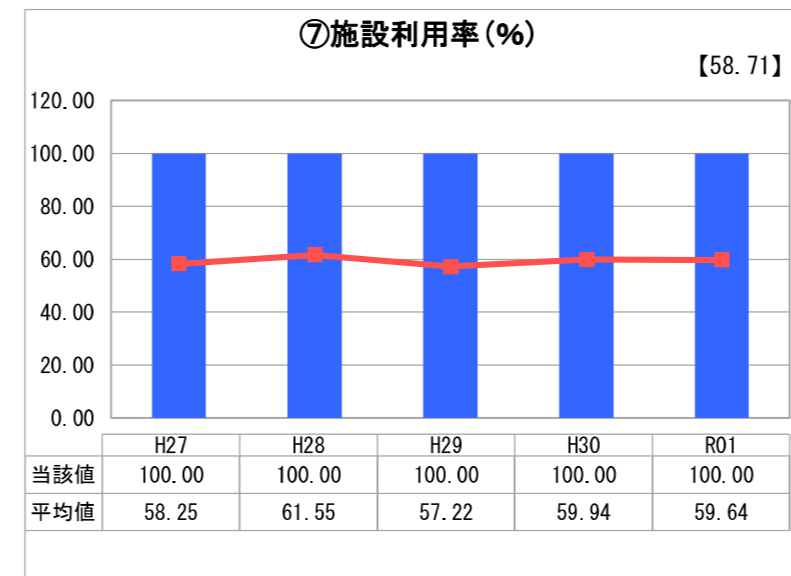
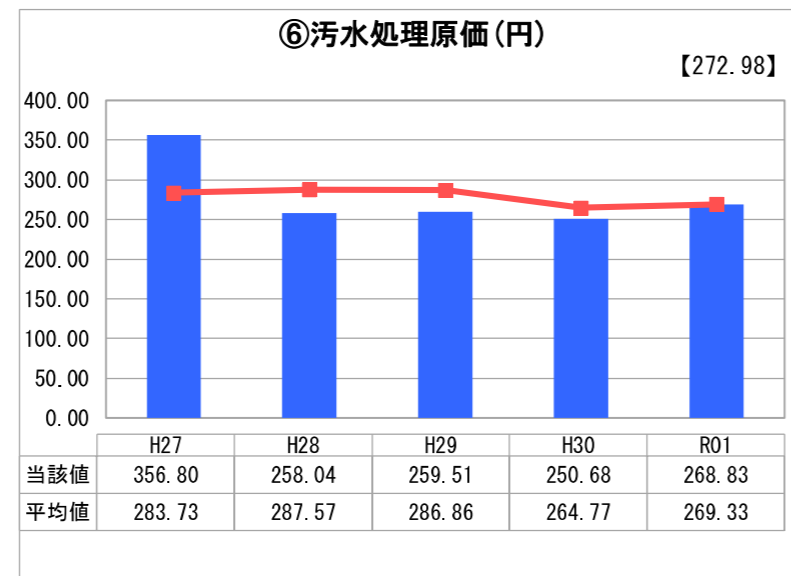
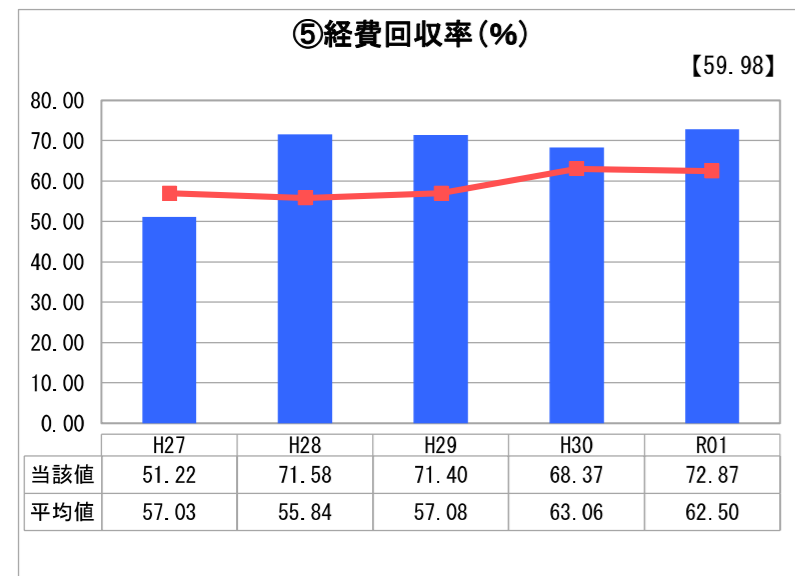
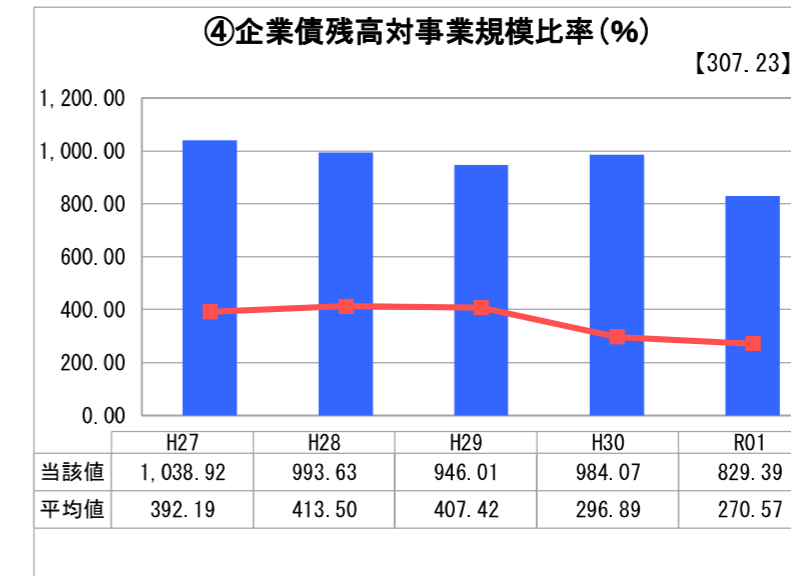
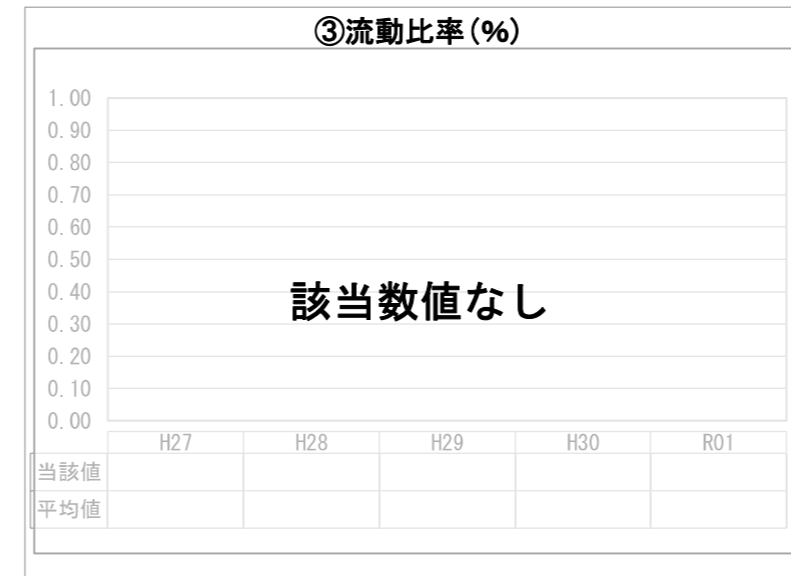
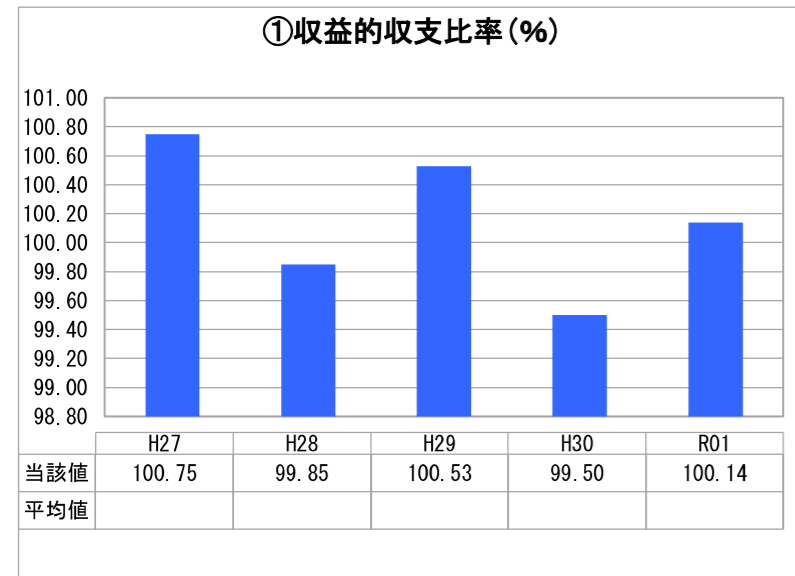
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	31.71	100.00	2,618

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,069	55.90	198.01
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,496	55.90	62.54

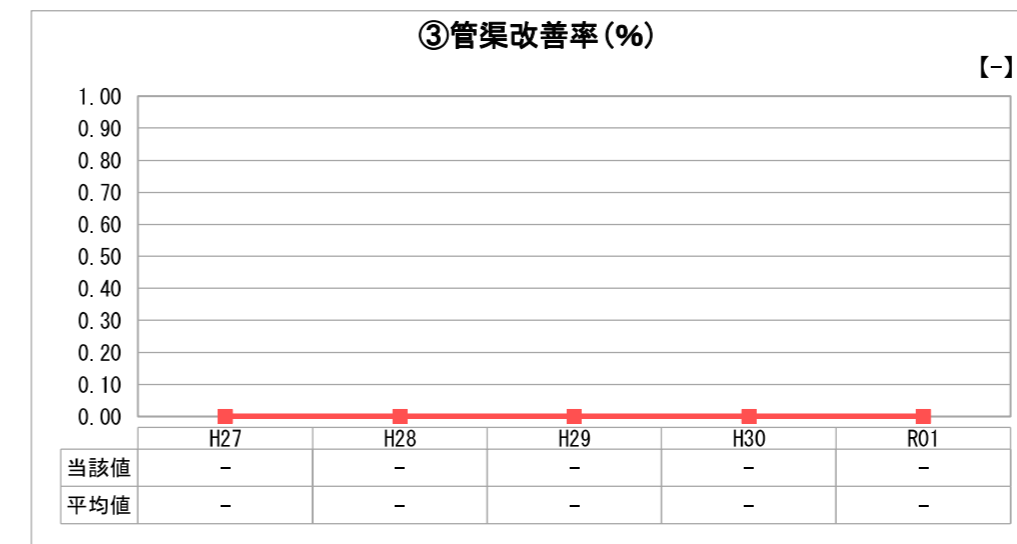
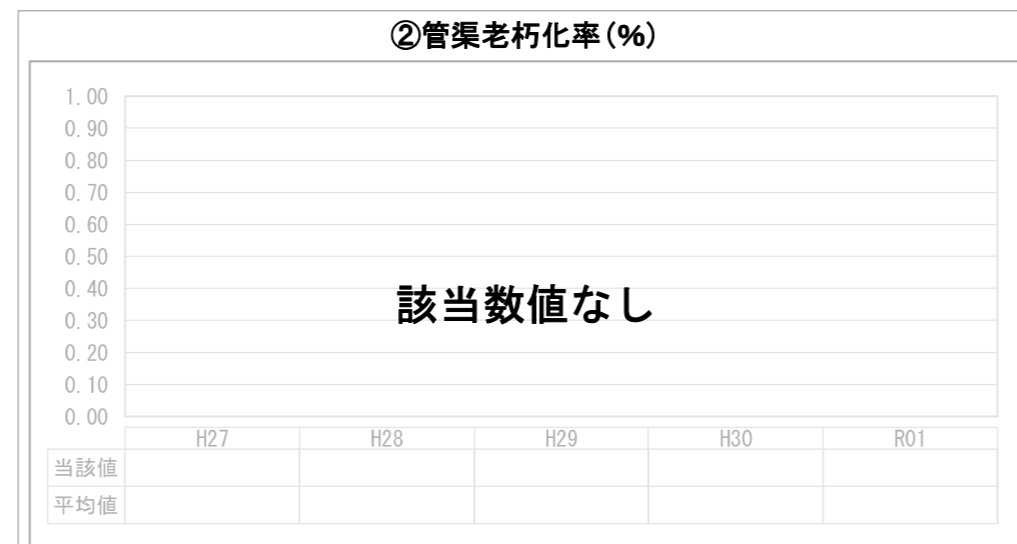
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、総収益、総費用及び地方債償還額ともに前年度を上回っている状況であるが、100%を上回った。これは、設置基数の増に伴う使用料が増加したためである。単年度の収支は黒字となっており、健全な経営状態であるといえる。

企業債残高対事業規模比率は、単年度での変動はあるが長期的には減少傾向を示している。類似団体平均値と比較し大きくなっているのは、ときがわ町が市町村整備型の浄化槽事業を他に先駆けて実施してきたことによるものと思われる。

経費回収率は100%を下回っているが、類似団体平均値を上回っている。適正な使用料水準の検討や経費の節減に努めることが必要である。

汚水処理原価も類似団体平均値をわずかではあるが下回っている。人件費、下水道事業償還金・利息等その他の経費については一般会計繰入金によるところが大きい。

### 2. 老朽化の状況について

該当なし。

## 全体総括

使用料収入だけでは、経費を賅うことはできないため、一般会計繰入金に頼らざるを得ないのが現状である。しかしながら、市町村整備型の浄化槽事業としては、河川の水質向上のために町からの投資も必要であり、やむを得ないものと考えられる。

今後の健全な運営に向けて、維持管理費の低コスト化、経営の広域化、水道事業との統合等、検討する必要があると思われる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。